

Showa Manufacturing Co.,Ltd.

## 第93期 中間報告書

平成26年4月1日 ▶ 平成26年9月30日

# SHOWA

快 適 環 境 の 創 造 に 挑 戦 す る



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、当社グループは平成26年9月30日をもちまして、第93期中間期を終了いたしましたので、ここに事業の概況並びに中間決算の結果につきましてご報告申しあげます。

平成26年12月

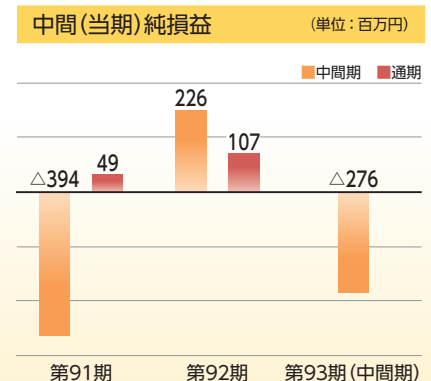
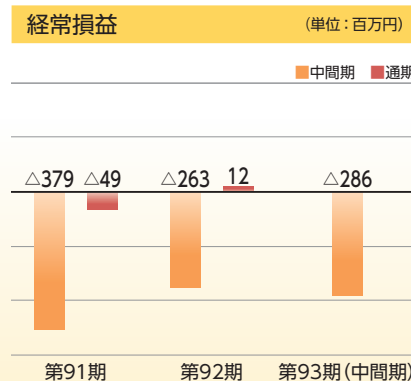
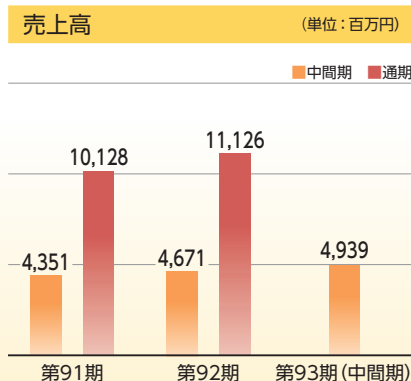
代表取締役社長 山本駿一

## 新中期経営計画「持続的 既存事業の安定化と新規

当中間期(平成26年4月1日～平成26年9月30日)におけるわが国経済は、政府や日銀による一連の経済政策や金融政策を背景に、企業収益は回復傾向、雇用環境も改善傾向にあり、長期的には緩やかな回復基調が続いてきました。しかしながら、国内においては4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要反動による個人消費の想定外の落ち込みや円安による輸入コストの上昇、海外においては米国の量的緩和終了後の金融政策動向、欧州や新興国の減速懸念等の世界経済の下振れリスクにより、景気の先行きに対する不透明感が強まる状況で推移しました。

このような情勢の中で当社グループは、平成30年度を最終年度とする新中期経営計画「持続的進化」の初年度として、基本方針である当社の「持続的進化」を確固たるものにするため「既存事業の安定化」と「新規事業の確立」の実現に向け、差別化した新製品・サービスの拡販と新規事業への投資を実施してまいりました。

機器装置事業につきましては、熱源BU(ビジネスユ



# 進化」を確固たるものにするため、 事業の確立に全力で取り組んでまいります。

ネット)・空調BU・環境BUは堅調に推移しました。サーモデバイスBUは前年度の受注案件が予定どおり順調に出荷・売上計上できたことにより好調に推移し、当事業の売上高は32億4千6百万円(前年同期比21.9%増)となりました。

素形材加工事業につきましては、素形材BUは堅調に推移しましたが、都市景観BUは前年度のような大型案件がなかったため低調に推移し、当事業の売上高は6億9千1百万円(前年同期比31.5%減)となりました。

サービスエンジニアリング事業につきましては、設備工事、有料サービス及びリニューアル工事ともに堅調に推移し、当事業の売上高は10億1百万円(前年同期比0.4%増)となりました。

その結果、当中間期における当社グループの売上高は49億3千9百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

損益面では、営業損失は3億円(前年同期は営業損失2億6千9百万円)、経常損失は2億8千6百万円(前年同期は経常損失2億6千3百万円)となりました。また、

特別利益に固定資産売却益2千2百万円を計上した結果、中間純損失は2億7千6百万円(前年同期は中間純利益2億2千6百万円)となりました。

通期の見通しにつきましては、当面、弱さが残るものの国内需要が堅調に推移し、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって、駆け込み需要の反動減も和らぎ、緩やかに回復していくものと予想されます。

当社グループは、新中期経営計画「持続的進化」を確固たるものにするためにも、「既存事業の安定化」と「新規事業の確立」を目指し、今期の業績計画達成に向け全力で取り組む所存でございます。

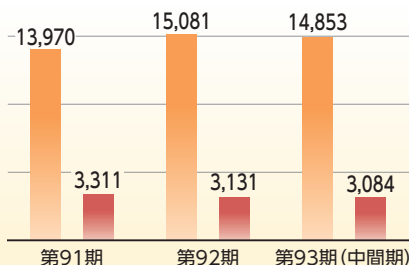
また、中間配当につきましては、当中間期の業績を踏まえ、見送らせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

総資産・純資産

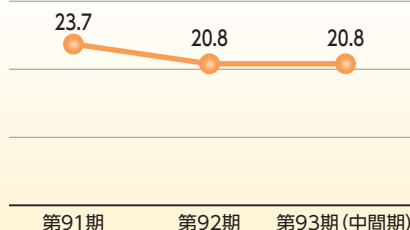
(単位：百万円)

■総資産 ■純資産



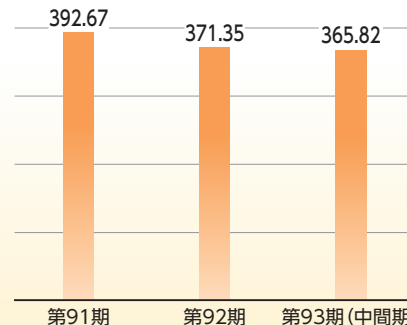
自己資本比率

(単位：%)



1株当たり純資産

(単位：円)



### 中間連結貸借対照表

科目	当中間期 平成26年9月30日現在	前中間期 平成25年9月30日現在	前期 平成26年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>	<b>7,893</b>	<b>8,430</b>	<b>8,159</b>
現金及び預金	3,030	3,640	3,056
受取手形及び売掛金	2,451	2,607	3,773
電子記録債権	205	103	139
有価証券	300	500	—
たな卸資産	1,597	1,412	1,127
その他	312	170	66
貸倒引当金	△2	△3	△4
<b>固定資産</b>	<b>6,959</b>	<b>5,904</b>	<b>6,922</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>2,495</b>	<b>2,471</b>	<b>2,477</b>
建物及び構築物	522	559	542
機械装置及び運搬具	228	217	218
土地	1,581	1,584	1,584
建設仮勘定	49	24	27
その他	112	85	104
<b>無形固定資産</b>	<b>39</b>	<b>44</b>	<b>38</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>4,423</b>	<b>3,389</b>	<b>4,406</b>
投資有価証券	3,856	2,720	3,818
その他	594	695	615
貸倒引当金	△26	△27	△26
<b>① 資産合計</b>	<b>14,853</b>	<b>14,335</b>	<b>15,081</b>

#### ① 総資産

前期末に比べ2億2千8百万円減少し、148億5千3百万円となりました。主な要因は、たな卸資産(商品及び製品、原材料、仕掛品)4億7千万円、投資有価証券3千8百万円が増加した一方で、現金及び預金2千5百万円、売上債権(受取手形及び売掛金、電子記録債権)12億5千6百万円が減少したものです。

#### ② 負債

前期末に比べ1億8千1百万円減少し、117億6千8百万円となりました。主な要因は、繰延税金負債9千3百万円が増加した一方で、サーモデバイス事業関連連損失引当金7千7百万円、固定負債(その他)1億4千万円が減少したものです。

#### ③ 純資産

前期末に比べ4千6百万円減少し、30億8千4百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金2億3千7百万円が増加した一方で、利益剰余金3億1千2百万円が減少したものです。

科目	当中間期 平成26年9月30日現在	前中間期 平成25年9月30日現在	前期 平成26年3月31日現在
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>	<b>8,196</b>	<b>7,875</b>	<b>8,193</b>
支払手形及び買掛金	2,714	2,126	2,739
短期借入金	4,320	4,620	4,220
未払費用	568	543	435
未払法人税等	23	82	57
サーモデバイス事業関連連損失引当金	38	—	116
その他	531	503	624
<b>固定負債</b>	<b>3,572</b>	<b>2,939</b>	<b>3,756</b>
長期借入金	980	700	1,090
退職給付引当金	—	1,629	—
退職給付に係る負債	2,014	—	2,042
繰延税金負債	106	4	13
その他	470	605	611
<b>② 負債合計</b>	<b>11,768</b>	<b>10,815</b>	<b>11,950</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>	<b>3,010</b>	<b>3,378</b>	<b>3,322</b>
資本金	1,641	1,641	1,641
資本剰余金	1,225	1,225	1,225
利益剰余金	231	599	543
自己株式	△88	△87	△88
その他の包括利益累計額	74	141	△191
その他有価証券評価差額金	338	81	100
為替換算調整勘定	107	59	111
退職給付に係る調整累計額	△371	—	△403
<b>③ 純資産合計</b>	<b>3,084</b>	<b>3,519</b>	<b>3,131</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>14,853</b>	<b>14,335</b>	<b>15,081</b>

## 中間連結損益計算書

科目	当中間期	前中間期	前期
	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
<b>4</b> 売上高	4,939	4,671	11,126
売上原価	3,971	3,672	8,597
売上総利益	968	998	2,528
販売費及び一般管理費	1,269	1,267	2,601
<b>5</b> 営業損失	△300	△269	△72
営業外収益	61	52	215
営業外費用	47	46	130
<b>5</b> 経常損益	△286	△263	12
特別利益	22	934	936
特別損失	—	326	733
税金等調整前 中間(当期)純損益	△264	344	215
法人税、住民税及び事業税	12	74	63
法人税等調整額	—	44	44
少数株主損益調整前 中間(当期)純損益	△276	226	107
<b>5</b> 中間(当期)純損益	△276	226	107

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期	前中間期	前期
	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
<b>6</b> 営業活動による キャッシュ・フロー	64	596	369
投資活動による キャッシュ・フロー	△70	279	△70
財務活動による キャッシュ・フロー	△58	△51	△68
現金及び現金同等物の 増減額	△64	824	231
現金及び現金同等物の 期首残高	3,042	2,811	2,811
現金及び現金同等物の 期末残高	2,977	3,636	3,042

### 4 売上高

当社の「持続的進化」を確固たるものにするため「既存事業の安定化」と「新規事業の確立」の実現に向け、差別化した新製品・サービスの拡販と新規事業への投資を実施してまいりました。その結果、当中間期における当社グループの売上高は49億3千9百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

### 5 営業損失・経常損益・中間純損益

営業損失は3億円(前年同期は営業損失2億6千9百万円)、経常損失は2億8千6百万円(前年同期は経常損失2億6千3百万円)となりました。また、特別利益に固定資産売却益2千2百万円を計上した結果、中間純損失は2億7千6百万円(前年同期は中間純利益2億2千6百万円)となりました。

### 6 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、獲得した資金は6千4百万円(前年同期は5億9千6百万円の獲得)となりました。主な要因は、売上債権の減少額12億5千6百万円による増加と、税金等調整前中間純損失2億6千4百万円、仕入債務の減少額2千4百万円、たな卸資産の増加額4億7千万円及びその他の資産・負債の増減額4億5千3百万円による減少です。



### 当社の防護柵(高欄)が広島市の太田川大橋に採用され納入しました。

橋名	太田川大橋
施主	広島市
設計	株式会社エイト日本技術開発



写真提供：有限会社イー・イー・ユー



#### ●世界から注目される橋梁

広島平野を洪水被害から守るため、昭和初期から着工し、戦争による一時中断を経て昭和42年に完成した太田川放水路。

この太田川放水路に架かる太田川大橋の建設にあたっては、厳島に代表される周辺景観を引き立たせるシンボリックで美しいデザインにするため、橋梁では国内で二例目となる国際コンペが実施されました。その中で最優秀案に選ばれたこの橋梁の渡河橋の歩道部分は、橋脚を突き抜けた非常にダイナミックな構造で、また、車道と分離しているため安全で利用しやすいものとなっています。

世界から注目されるこの橋梁の376.5mにわたって、当社のダクタイル鑄鉄製高欄が採用されています。

### 会社概要

商号	昭和鉄工株式会社 Showa Manufacturing Co.,Ltd.
本社所在地	福岡市東区箱崎ふ頭三丁目1番35号
創業	明治16年10月2日
設立	昭和8年4月30日
資本金	16億4,100万円
従業員数	333名(連結391名)
主な事業内容	ファンコイルユニット・エアハンドリングユニット等の空調機器、業務用エコキュート・ボイラー・ヒーター・バーナー・オユシス等の熱源機器、循環温浴器・空気清浄機等の環境機器、液晶パネル製造用熱処理炉等のサーモデバイス機器、橋梁用防護柵等の景観製品、鋳造品等の製造販売のほか、空調機器、熱源機器等の一部販売・メンテナンス・取替工事及び給排水衛生設備等の設計・監理・施工の請負

### 主な事業所

東京支社	東京都大田区蒲田五丁目44番5号
工場	宇美工場(福岡県粕屋郡)、古賀工場(福岡県古賀市)、札幌工場(石狩市)
営業所	札幌、仙台、北関東(さいたま市)、名古屋、大阪、広島、下関、九州(福岡県粕屋郡)、南九州(熊本市)、鹿児島
関係会社	昭和ネオス株式会社、昭和トータルサービス株式会社、朝日テック株式会社、大連冰山空調設備有限公司、KOREA PIONICS CO., LTD.

### 役員

#### 取締役・監査役

代表取締役	山本 駿一
取締役	山田 治彦
取締役	福田 俊仁
取締役	筋野 隆
監査役(常勤)	山根 譲治
監査役	吉田 泰彦
監査役	永利 新一

#### 執行役員

社長CEO	山本 駿一
専務執行役員	山田 治彦
常務執行役員	福田 俊仁
執行役員	村山 正巳
執行役員	鍋山 敏郎
執行役員	倉岡 淳
執行役員	板並 隆一
執行役員	一木 和弘
執行役員	鈴木 善廣

### 株式の状況

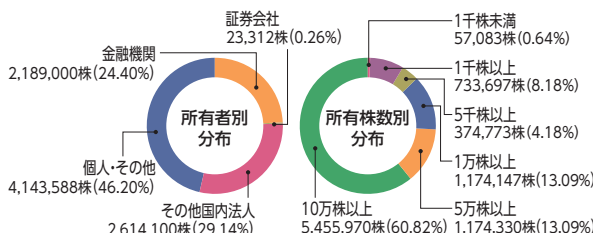
発行可能株式総数	24,000,000株
発行済株式の総数	8,970,000株
株主数	865名

### 大株主

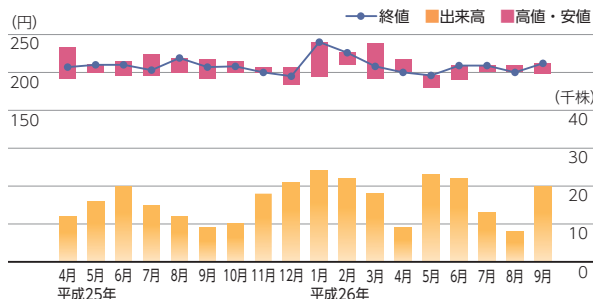
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三井金属鉱業株式会社	485,000	5.75
株式会社福岡銀行	415,500	4.92
株式会社西日本シティ銀行	400,000	4.74
株式会社北九州銀行	357,500	4.23
住友商事株式会社	345,000	4.09
飯田卓子	297,114	3.52
西日本鉄道株式会社	291,000	3.45
飯田久泰	267,000	3.16
稲田好美	198,135	2.34
日本乾溜工業株式会社	187,000	2.21

(注)持株比率は、自己株式(538,221株)を控除して計算しております。

### 株式分布状況



### 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主総会の招集地	福岡市
基準日	定時株主総会の基準日 毎年3月31日 剰余金の配当の基準日 毎年3月31日 中間配当の基準日 毎年9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (お問合せ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国 各支店で行っております。
公告方法	電子公告によります。 <a href="http://www.showa.co.jp/koukoku/index.html">http://www.showa.co.jp/koukoku/index.html</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告 による公告をすることができない場合は、日本経済新聞 に掲載して行います。
単元株式数	1,000株

## ● 株主様へのご案内

住所変更、単元未満株式の買取・買増  
等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。



ホームページもご覧ください。  
<http://www.showa.co.jp/>



〒812-8587 福岡市東区箱崎ふ頭三丁目1番35号  
TEL 092-651-2931 (代表)



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。  
森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷しています。